

# ユーザーレポート User Report

ゼロ  
0の証明

個人

## 守り抜いた「日常」と、 家族が手にした新しい「安心」の形

アルコール依存という嵐は、ある日突然やってくるものではありません。静かに、しかし確実に家族の平穏を浸食していきます。今回ご紹介するのは、71歳のご主人の飲酒問題に長年向き合い、葛藤の末に「アルコールインターロック」という選択をした秋田様(仮名)の再生の物語です。

ご利用機器

カメラ付き  
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



### 繰り返される葛藤と、 止まらない「依存」の影

秋田様ご夫妻は、結婚して45年。定年後、ご主人は「農家の息子」としての経験を活かし、丹精込めて畑を耕してきました。採れた野菜を100円の無人販売所で売ることは、ご主人の大きな生きがいでした。しかし、その穏やかな日常の裏では、深刻な飲酒問題が進行していました。

もともと仲の良い三兄弟でしたが、ご主人は大切に思っていた二人の兄を相次いで癌で亡くされました。その悲しみと寂しさを埋めるように、徐々にお酒の量が増えていきました。いつしか朝から晩までストロング缶やウイスキーを手放せない状態になり、体は悲鳴を上げていました。

「これは、ただのお酒好きではない」奥様はご主人の様子を調べ、それが本人の意志だけではコントロールできない「脳の病気」であることを知ります。しかし、プライドの高いご主人は受診を頑なに拒否し続けました。



※写真はイメージです

奥様は一人で悩み苦しみ、5年前についに家を出ました。その際、お子様たちが「お父さんは依存症になっている」と根気よく説得し、通院に繋がりましたが、飲酒量が減ることはありませんでした。その後、老衰しかけていた愛猫へのご主人の優しさに触れ、奥様は「もう一度だけ信じたい」と2年前に家に戻りました。しかし、戻った先で待っていたのは、以前にも増してお酒を手放せなくなったご主人の姿でした。医師からも入院を勧められる中、事態は最悪の局面を迎えます。

### 運命を変えた3月31日 ——「あの日」の事故の真実

2024年3月31日、ついに恐れていた事態が起きました。ご主人が畑での作業中にストロング缶を飲み干し、酔った状態でハンドルを握ってしまったのです。車は道路脇の側溝に激しく乗り上げ、身動きが取れなくなりました。

近所の方々に助けられ、奥様が迎えに行ってもなんとか帰宅しましたが、ご主人は「車の様子が気になるから現場に連れて行け」と譲りません。奥様が断ると、ヨロヨロの足取りで「お前が乗せないなら俺が運転していくぞ!」と脅すように怒鳴りました。現場で無残にへこんだ車を見ても「たいしたことないな」と自分のしたことを気にも留めない様子に、奥様は底知れぬ恐怖を感じました。

この事件の重大さに、奥様は震える手でお子様たちに電話をかけた。真実を知ったお子様たちは、真っ先に奥様の心に寄り添い、こう言いました。「このままお父さんを放置することは、いつか誰かの命を奪い、一生消えない罪を背負わせることと同じになってしまう。お父さんは入院してちゃんと治療を受けないとだめだ」。

家族が最も恐れたのは、ご主人が「加害者」となり、その人生のすべてが最悪の結末で塗り替えられてしまうことでした。「入院」は、ご主人を突き放すためではなく、お父さん自身と、その尊厳を「守り抜く」ための、最後の手立てだったのです。



※写真はイメージです

# ユーザーレポート

# User Report

ゼロ  
0の証明

個人

## 壊れた静寂と、愛ゆえの「強制入院」という決断

月に一度の通院日の前に、奥様は一人で担当医に相談に行きました。状況を聞いた医師から「入院の必要があるところまで来ている」と告げられ、奥様は心を決めました。

受診当日、何も知らされていなかったご主人は「騙したな!」と激昂し、激しく抵抗しながら入院しました。これがどういう結果に繋がるか不安もありましたが、家族は「どういう結果でも受け止めよう」と覚悟を決めていました。

しかし、3ヶ月の入院生活は困難を極めました。ご主人は治療を拒絶し、退院することばかりを主張。病室に引きこもるうちに筋力は衰え、認知症を疑うほど心身ともに荒れていく姿を、家族はただ見ているしかありませんでした。このままではお父さんがダメになってしまう。その時、お子様が詳しく調べて提案してくれたのが「アルコールインターロック」でした。



## インターロックがもたらした「沈黙の守護者」

「お家に帰りたなら、お酒を飲んでいたらエンジンがかからなくなるインターロックを付ける。これが退院の条件だよ」

家族は、病院という枠組みではなく、この機械による物理的なルールの中に身を置くことで安全を担保し、社会復帰させる道を選びました。退院の翌日、初めてインターロックを付けた車を運転した際、感覚の鈍りや薬の副作用もあり、ガードレールにぶつけてドアを交換することになりました。しかし、この失敗さえも、ご主人が自らの飲み方やこれまでの生き方を振り返る大切な契機となりました。

導入から数ヶ月。10月の測定ログには、朝の残酒でロックがかかった記録が残っていました。以前ならそのまま運転していたかもしれませんが、装置が拒否することで、ご主人は「機械がダメだと言っているから仕方ない」と、数値が下がるのを静かに待つようになりました。

### ■導入後の変化と、家族が手にしたもの

#### 【見守りの交代】

奥様一人で背負っていた「監視」の重圧を機械が代行し、夫婦間の不毛な争いが劇的に減少しました。

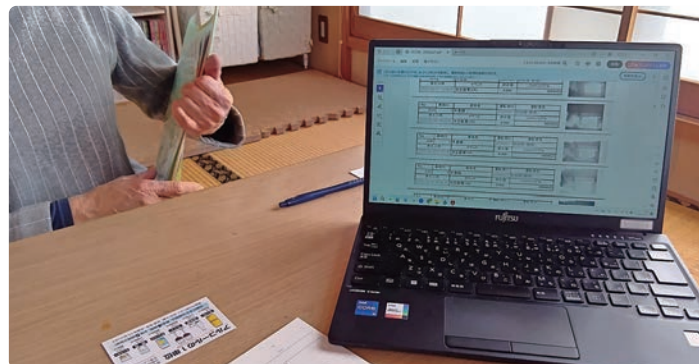
#### 【頑張りの可視化】

測定ログが「0.00」であることは、ご主人がルールを守っているという「信頼」の証となりました。

#### 【地域での尊厳】

装置があるからこそ、ご主人は再び大好きな畑で「頼りにされる自分」として生きることができています。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。



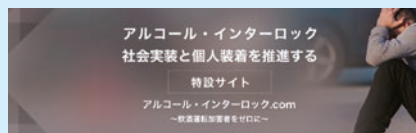
結びに代えて：飲酒問題で悩まれているご家族へ

「依存症は病気。だから、テクノロジーの力を借りていいんです」秋田様はそうおっしゃいます。インターロックは単なる機械ではありません。ご主人のプライドを守り、奥様の不安を解消し、再び「家族」としての絆をつなぎ止めるための、大切なお守りなのです。「お父さんに長生きしてほしい。ただそれだけなんです」その切実な願いは、今日も装置の測定音とともに、去年の今頃には想像もできなかった「穏やかな日常」として積み重ねられています。

この文章が、今も暗闇の中にいるご家族の「次の一歩」を照らす光になりますように。

#### 取材ご協力

家族を守る方法の手段として、アルコール・インターロックを導入された秋田さん(仮名)ご一家



東海電子WEBサイト  
【アルコール・インターロック.com】  
<https://alcohol-interlock.com/>



#### LINE 公式アカウント

@700xyfip

大切な人の飲酒運転で  
悩まれていたら…  
いつでも LINE で  
ご相談ください!

